
プレスリリース

ロンドン、2023年11月21日 06:00

自動車および工業用需要の堅調な成長が続き、供給が抑制されるなか、2024年は2年連続のプラチナ不足を予想

- 2024年のプラチナ不足は11トン、2023年の不足は100万オンス超の見通し
- 2023年と2024年には、鉱山とリサイクルからの供給はいずれもコロナ禍以前の水準を大幅に下回ると予想
- 自動車需要は引き続き増加し、2023年は14%増、2024年はさらに2%増の見込み
- 2023年の工業用需要は過去最高、2024年は史上3番目
- 2024年の投資需要は依然として良好と予測

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC®）は本日、2023年第3四半期の Platinum Quarterly を発表しました。この発表では2023年通期予測が修正され、2024年予測が初めて発表されました。

2023年の市場は、33トンの記録的な不足が予想されています。これは、前年比26%増（53トン増）の254トンという異例の旺盛な需要が、前年比3%減の220トンと予想される供給をはるかに上回るためです。

2024年の不足は11トンと予想され、不足は2年連続となる見込みで、需要は6%減（15トン減）の238トン、総供給量は3%増（7トン増）の227トンとなり、依然としてコロナ禍前の水準を大きく下回っています。

鉱山とリサイクルからの供給制約が継続

2023年通年の世界の鉱山供給量は、前年比ほぼ横ばいの174トンと予想され、コロナ禍前の5年間の平均生産量を約8%下回ります。これは業界が直面しているいくつかの継続的な課題の一部を反映するものです。南アフリカの電力不足の深刻化など、下振れリスクが依然残っていますが、加工インフラへの投資や資産の最適化により、採掘リスクは軽減されています。

2024年の世界のプラチナ鉱山供給量は前年比3%増（+6トン）の179トンと予想され、うち南アフリカの生産量は5%増加する見込みです。

2023年の世界のプラチナリサイクル予想量は、2022年の水準を13%下回る46トンへと一段と下方修正されました。その主な理由は、消費者の既存の自動車の使用期間が長期化し、使用済み自動車が不足していることと、パラジウム価格が低迷しているためスクラップヤードに使用済み部品が累積していることです。こうした逆風は2024年も続くと予想されるため、2024年の世界のプラチナリサイクル量は7%増（+3トン）と、小幅な改善にとどまるとみられています。

2024年の自動車需要は4年連続で増加する見通し

2023年は、世界の小型車生産台数8%増と大型車生産台数10%増に牽引され、自動車用プラチナ需要は14%急増して101トンとなり、6年ぶりの高水準になると予想されています。特に中国における排ガス規制の強化も需要を押し上げています。さらに、パラジウムの代替としてのプラチナは2022年の12トンに対し、2023年は約19トンに達すると推定されています。

自動車需要は 2024 年も成長が見込まれ、前年比 2%増の 103 トンと、2016 年以来の高水準が予測されています。排出規制の強化に加え、パラジウムの代替となるプラチナ量は 22 トン程度まで増加すると予想されるため、ほとんどの地域で引き続き成長を押し上げる要因となるでしょう。

2023 年の工業用需要は過去最高、2024 年は史上 3 番目の高水準

2023 年の工業用需要は前年比 14%増（10 トン増）の 82 トンに達すると予測され、過去最高となります。この成長は、ガラスセクター（50%増、8 トン増）および化学セクター（10%増、2 トン増）の大幅な生産能力増強によって促進され、電気（13%減、0.4 トン減）および石油（12%減、0.7 トン減）市場の需要減少を相殺しました。

2024 年の工業用需要は 11%減少すると予測されていますが、それでも 74 トンと過去 3 番目の高水準となります。生産能力増強の減少により、ガラスセクター（18%減、4 トン減）と化学セクター（22%減、5 トン減）で、プラチナ需要は前年同期比で減少するでしょう。一方、医療セクターでは、特に新興市場で医療機器やがん治療におけるプラチナの使用が拡大しているため、需要は 3%増の 9 トンになると予想されています。さらに、「その他」の工業用セグメントが 4%増の 19 トンになると予測されています。

プラチナの宝飾品需要は横ばい

2023 年の世界の宝飾品需要は前年比 3%減の 58 トンで、インドと北米では増加するものの、他の地域、特に中国の低迷を補うことはできないと予想されています。2024 年の需要は 3%増の 59 トンになると予想され、中国とインドでの増加が北米市場の悪化によって相殺される形となります。

2 年連続で純増となる投資需要

2023 年の世界の個人投資家によるプラチナ投資量は 36%増の 9 トンになると予想されています。これは主に 3 年間プラチナ投資が純減していた日本のプラス転換によるものです。南アフリカの電力供給が懸念される中で、1-9 月に ETF に資金が流入しました。しかし、第 4 四半期には資金流出が予想されるため、年間保有量は 2 トンの小幅な増加にとどまる見込みです。通年の投資額は 12 トンの純増となると予想されています。

2024 年の地金およびコインへの投資量は 44%減の 5 トンと予測され、北米の需要が 11%減少する一方で、日本は純減に転じる見込みです。プラチナ ETF は、欧州と北米の高金利の影響を受け、2024 年は 4 トンの流出が予想されています。一方、取引所在庫には 1 トンが流入すると予想されています。この結果、年間 3 トン純増となります。

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの **Trevor Raymond**（トレヴァー・レイモンド）CEO は以下のように述べています。

「今年の 100 万オンスを超える記録的な不足予想に続き、プラチナ市場は 2 年連続で不足に直面しています。このことは、感覚とは裏腹に、多様な需要に支えられ、経済面の逆風にもかかわらずプラチナ市場が底堅いことを示しています。2023 年には、プラチナは大規模な工業用需要を受けて過去最高水準に達したほか、自動車生産台数の力強い回復、そして最も重要なこととして、パラジウムの代替としてのプラチナ需要の継続的な拡大の恩恵を受けてきました。

2024 年に 2 年連続で不足となる背景には、自動車需要が落ち着きを見せつつもさらに伸びると予想される一方、工業用需要は前年を下回るとはいえ、依然として堅調であり、コロナ禍前の 5 年間の平均水準を 22%上回るということがあります。

鉱山会社は、白金族のバスケット価格の大幅な下落が鉱山の採算に与える悪影響を管理するために、生産計画の見直しや操業の再編を検討していることもあり、2024年にかけて鉱山供給とリサイクル供給のいずれにも下方リスクが見られます。

プラチナ市場には過去3年間の経済の余波がまだ残っており、現在も市場の動きと価格に影響を与えています。自動車セクターでは、2020年から2022年に自動車生産台数が3,000万台以上減少したため、自動車メーカーは定期的な購入を減少させ、市場の逼迫を緩和することができました。世界の自動車市場が回復する現時点まで、この白金族の過剰在庫が需要を満たし、市場の不足をある程度補ってきました。自動車生産台数と販売台数の増加が続き、こうした在庫が消滅すれば、自動車メーカーのより一般的なプラチナ購入パターンが復活し、それによって市場が一段と引き締まってプラチナ価格に上昇圧力がかかる可能性があります。

プラチナは、自動車の有害な排出ガスを削減するために依然として不可欠な要素であり、輸送などのセクターの脱炭素化においても、水素の利用を可能にするうえで、すでに極めて重要な要素となっています。台頭しつつある水素経済にとってプラチナが鍵であるという認識は、ますます高まっています。現在、プラチナ投資の魅力は市場における大幅な供給不足にあります。将来を展望すれば、水素に関連した需要の追い風からも恩恵を受けることでしよう」

プラチナ需給バランス (トン)	2020	2021	2022	2023e	2024f	2023年予想/2024年予想/2025年予想 (2年成長率 (%))		2022年 第3四 半期	2023年 第2四 半期	2023年 第3四 半期
						2年成長率 (%)	3年成長率 (%)			
供給										
製錬高	155	196	172	173	179	1%	3%	43	46	44
南アフリカ	103	146	122	121	127	0%	5%	30	32	31
ジンバブエ	14	15	15	16	16	5%	1%	4	4	4
北米	10	8	8	8	9	2%	13%	2	2	2
ロシア	22	20	21	21	20	3%	-7%	6	6	5
その他	6	6	6	6	6	-4%	4%	2	1	2
生産者製品在庫における増減 (+/-)	-3	-3	1	2	0	33%	-100%	-7%	0	0
鉱山からの総供給量	153	193	173	174	179	1%	2%	43	46	44
リサイクル										
自動車触媒	47	49	39	33	35	-16%	8%	10	8	8
宝飾品	13	13	12	11	11	-5%	3%	3	3	3
工業	2	2	2	2	2	2%	4%	1	1	1
総供給量	215	258	226	220	227	-3%	3%	56	57	55
需要										
自動車	72	79	89	101	103	14%	2%	22	26	25
自動車触媒	72	79	89	101	103	14%	2%	22	26	25
ノンロード	↑	↑	↑	↑	↑	N/A	N/A	↑	↑	↑
宝飾品	57	61	59	58	59	-3%	3%	15	15	14
工業	65	79	73	82	74	14%	-11%	17	21	18
化学	19	21	21	23	18	10%	-22%	3	7	4
石油	3	5	6	5	5	-12%	-8%	2	1	1
電気	4	4	3	3	3	-13%	-3%	1	1	1
ガラス	15	23	16	24	19	50%	-18%	5	5	5
医療	8	8	8	9	9	4%	3%	2	2	2
その他	16	17	18	19	19	4%	4%	4	5	5
投資	48	-2	-20	12	3	N/A	-79%	-8	5	-0
地金、コインの増減	18	10	7	9	5	36%	-44%	3	1	2
ETF保有高の増減	16	-7	-17	2	-4	N/A	N/A	-7	5	-3
取引所在庫の増減	14	-4	-10	1	1	N/A	0%	-4	-1	1
総需要	242	217	201	254	238	26%	-6%	45	67	56
残余量	-27	40	25	-33	-11	N/A	N/A	11	-11	-1
地上在庫	81**	121	146	112	101	-23%	-10%			

出典: Metals Focus 2020 - 2024

注記：

1. ** 2018年12月31日現在の地上在庫 114 トン (Metals Focus)
2. † ノンロード自動車需要は自動車触媒需要に含まれます

-ENDS-

メディア関連のご要望は、**Elephant Communications** にお問い合わせください
wpic@elephantcommunications.co.uk

編集者への注記：

『Platinum Quarterly』について

『Platinum Quarterly』は世界のプラチナ市場を四半期毎に分析するもので、独立した立場で実施され無料で提供される業界初のレポートです。『Platinum Quarterly』は、ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの刊行物です。WPIC が委託し、プラチナ金属市場の権威ある独立機関である **Metal Focus** が実施した調査と詳細な分析に主に基づいて作成されています。

World Platinum Investment Council (ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル、WPIC®) について

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル (WPIC®) は、現物プラチナ投資に関する世界市場の権威として、客観的で信頼できるプラチナ市場情報に対する、投資家の方々の強いご要望を受けて設立されました。WPIC の使命は、行動可能な見識と目標を定めた商品開発を通じて、現物プラチナに対する世界の投資需要を喚起することにあります。WPIC は、南アフリカの主要プラチナ生産者により 2014 年に創設されました。WPIC の加盟会社は、Anglo American Platinum (アングロ・アメリカン・プラチナ)、Impalats、Northam Platinum (ノーザム・プラチナ)、Sedibelo Platinum (セディベロプラチナ)、Tharisa です。

詳細は、ウェブサイト www.platinuminvestment.com をご覧ください

WPIC ロンドン事務局所在地：World Platinum Investment Council, Foxglove House, 166 Piccadilly, London, W1J 9EF

WPIC 上海事務所：中国上海市浦東新区銀城路 8 号 ICBC タワー2301 号 World Platinum Investment Council

Metals Focus について

Metals Focus は、世界の大手貴金属コンサルティング会社の 1 つで、世界の金、銀、プラチナ、パラジウム市場の調査に特化し、定期レポートの発行、予測、個別のコンサルティング業務を行っています。Metals Focus チームは 8 つの法域に分散し、世界中に多数の情報源を有しています。これを活かし、Metals Focus は、貴金属市場に関する世界レベルの統計、分析、予測を提供することに専心しています。

詳細情報は、ウェブサイト www.metalsfocus.com をご覧ください。

プラチナについて

プラチナは世界で最も希少な金属の 1 つで、独特の品質を持つため、様々な需要分野において高く評価されています。プラチナ特有の物性および触媒活性は、工業利用においてその価値を確立しました。同時に、貴金属としての独特な特質のため、高級宝飾品にも使用されています。

プラチナには、主に鉱山での生産とリサイクルの 2 つの供給源があります。後者は使用済み自動車触媒と宝飾品のリサイクルによるものが主流です。過去 5 年間の年間プラチナ総供給量（精製済みオンス）の 73%~77%は、主に鉱山で生産されたものです。

世界のプラチナ需要は堅調で、ますます多様化しています。プラチナ需要の 4 大主要分野は、自動車、工業、宝飾、投資です。

自動車触媒における過去 5 年間のプラチナ需要は、総需要量の 31%から 46%の間を推移しています。自動車以外の工業分野でのプラチナの多様な使用は、世界総需要量の 30%となっています（過去 5 年間の平均）。同様に、宝飾品におけるグローバルな年間総需要は、平均で、プラチナ総需要の 27%を占めています。投資はプラチナ需要の中で最も変動が大きく、過去 5 年間は総需要の-10%から 20%を占めています（投資家が保有する未公表の保有残高の変動を除く）。

免責事項

World Platinum Investment Council および Metal Focus のいずれも、投資に関する助言を提供するための規制機関による許可を受けていません。本書のいかなる部分も、投資に関する助言、証券もしくは金融商品の販売の提案または購入の助言を意図するものではなく、そのように解釈されるべきでもありません。投資を行う前に必ず適切な専門家による助言を受けてください。詳細は、ウェブサイト www.platinuminvestment.com をご覧ください